ＹＩＡ 会員だより　2025 年 10 月号

発行；吉野川市国際交流協会・広報部(Tel22-2271,Fax22-2270)
第 250 号　ホームページ URL　https://yia2020.net/

【10 月以降の活動予定他】

◎浴衣着物着付け体験会：文化研修センター和室
日時：10 月 5 日（日）13:30～16:00

◎外国人お遍路ガイド：文化研修センター
第 34 回 10 月 6 日（月）10:00～11:30
第 35 回 10 月 25 日（土）13:00～14:30

◎第 6 回理事会：10 月 25 日（土）15:00～16:00

◎映画「道草キッチン」PR イベント：道草マルシェ
日時：11 月 16 日（日）16:00～21:00
場所：鴨島駅前イベント広場、HOSTEL OE 前
概要：映画 PR、ベトナム料理販売や竹遊びなど

◎国際交流バスツアー　行先：神戸周辺
日時：11 月 23 日（日）7:00～19:00

◆徳島県職員が日本語教室を視察　　萩森 健治

8 月 31 日、徳島県生活環境部で日本語教育を担当する山田寛之課長と矢野亜季係長が YIA の日本語教室を視察し、受講生や講師らと意見交換しました。

徳島県内の在住外国人数は 2024 年末に 8,907 人と過去最高を記録し、今後さらに増加すると見込まれています。県内に住む外国人が円滑に生活し就労できるよう、日本語を学ぶ機会を拡充し、日本語教育を効果的に進めることが急務となっています。国で定められた「日本語教育推進法」に則り、徳島県でも「日本語教育の推進に関する基本方針」の策定を進めています。そこで、県内で外国人に日本語を教えている教室を視察し、日本語教育の状況や課題の実態を把握して基本方針に反映させるため、今回の視察が行われました。

視察に先立ち、多くの受講生や講師が参加するよう声掛けした結果、当日の日本語教室には、インドネシア、ベトナム、中国、ネパール出身の受講生 12 人、日本語講師と YIA 理事など、計 23 人が出席しました。

はじめに県の山田課長が挨拶し、視察の趣旨を説明。つぎに、受講生らがそれぞれ日本語で出身国、仕事など自己紹介。講師も講師になったきっかけや指導体験などを話しました。教室の概要を把握されたところで、山田課長が質問し受講生や講師が答える形式で意見交換しました。概要は以下の通りです。

（1）日本語を学習する上で、難しいことは？
A:漢字や語彙など、敬語や普段使う話し言葉、阿波弁、文法の順序など母国の言葉と異なる、同じ漢字に多くの読み方があるので大変

（2）どのような場面で日本語を使いますか？
A：仕事や役所で使う、病院では使われる日本語が難しくて解らない、買い物で使うことは少ないが使う場合は難しくなく困らない

（3）どのようにして日本語を勉強していますか？
A：日本語教室で勉強、インターネットやスマホを使って自分で勉強、テキストを購入して自分で勉強

（4）その他いろいろ話してください
A：日本の生活で困ったこと、日本で好きな食べ物や苦手な食べ物、今後も日本または徳島で働きたい、徳島ではなく東京や大阪で働きたいなどを話しました

和やかに、楽しく意見交換会を終え、受講生らは定刻の 15 時半に下校しました。そのあと約 1 時間、県のお二人と講師らが、日本語講師の高齢化や人数不足、講師のレベルアップのための研修、運営のための予算、指導の難しさなどについて、本音で意見交換しました。今後、YIA 日本語教室の意見が県の日本語教育の推進に反映されることを期待しています。

◆「スペイン巡礼の道を歩く～フランス人の道 800 ㎞～」を聞いて　　三原 敦子

9 月 20 日、「熊野古道」と「サンティアゴ巡礼の道」を歩き、「２つの道の巡礼者（DUAR　PILGRIM）に

登録された新見眞理子さんのお話を聞きました。

新見さんは5月サン・ジャン・ピエ・ド・ポーを出発し、難所ピレネー山脈越えをし（週2回高越山登山をしているのでそう大変ではなかったそうですが）一路スペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラを目指して歩き続けました。一日約19㎞から20㎞、黄色いマークや帆立貝の道標に導かれ、時には嵐、雨に濡れたスマホ、牛糞、荷物の遅れなどに悩まされることもありましたが、出会った人々の優しさやいたわりに守られて、歩き続けることができたそうです。人気の巡礼宿（アルベルゲ）は早めの予約、荷物の先送り、到着時刻の予測と計算ずくめの毎日でストレスも大きかったようです。それでも周りの美しい山々や、ひなげし、ヒースなど色とりどりの花、どこまでも続く小麦畑そしてダブルレインボーに癒されながら歩き続けました。「自分はなぜ巡礼の道を歩いているのだろう？」と自問しながら歩いたそうですが、「不思議のメダイの聖母の聖堂」の碑に「道・真理の道を行く」という言葉があり、自分の名前の眞理子の由来を思い出し、名付けてくれた祖父の思いを受けとることができたとも話していました。アルベルゲの様子もベッドや食事付きの宿から自炊、マットレスのみ、ドアのないシャワー室様々で、これも山小屋生活に慣れている新見さんだからこそできたのかなあと思いました。

ヤコブの聖像のあるサンティアゴ・コンポステーラ聖堂でのボタフメイロ（大香炉）と歌声での清めの儀式を体験して巡礼の旅を終えました。

樫本さんから新見さんに花束贈

多くの人々との出会い、地元の食べ物、景色はここでは書き尽くせませんが、参加していた71人とともに、巡礼の道を歩いた気分になった90分でした。

◆藤井寺でのOsettai

遍路英語ガイドグループ　田村 実

9月25日、藤井寺でお接待を実施しました。ガイドグループが昨年発足し、今年は2年目となるので対外的な活動もということで計画。

朝7:30に境内で接待の準備をし、瀬尾さん、三宅さん、井内さんと私で12時迄担当。午後は5時まで田村が接待。2度程少雨があり場所を移動しましたが、天候の影響は余りありませんでした。8時から納経所が開くのをお2人が待っていました。午前は外国人のお遍路さんが結構多く16人。UK, Belgium, Netherlands, France, Switzerland, Australia, NZ, USA等から。France, USAの3人は仏教徒。日本人は約35人で、青森、埼玉、千葉、横浜、名古屋、金沢、大阪、岡山、香川、高知、愛媛、大分、佐賀、鹿児島等から。午後は外国人3人、日本人約45人。計約100人で住職さんによると通常より多かったとのこと。接待品は、水（富士山麓の500ml ペットボトル50本）、和菓子、ハイチュウ、森永キャラメル。外国人は、ほとんどの方が受け取りましたが、日本人は遠慮する方も。

新しいニュースとしては、本堂の裏に宝物殿があり、国の重要文化財の薬師如来が保管されていますが、現在は非公開に。30年前は、お彼岸時に公開されていたそうです。

東京からの学生は、四国遍路を卒論のテーマにしているということで、YIAの活動を紹介すると私たちの写真を撮っていました。佐賀の方は、なんと今回が33回目の歩き遍路（車利用では100回を超えると）ということでビックリ。またアメリカではハイチューが大人気で(HI-CHEW)、米国の老舗商品Starburstより美味しいと。そのほか奥ジャパンで、東みよし町の光明トラベルが実施する個人ガイド付きのツアーを利用するアメリカ人もいました。

お接待は、全員初めての経験でしたが、一定の目的を持って来られる方々との会話は楽しかったです。外国人は皆さん明るく、会話もはずみました。青森のお遍路さんから青森の話を詳しく伺い、来年行って見ようと思いました。10月と11月に各1回、藤井寺での接待を予定。またのご参加、宜しくお願いします。